

立教大学ジェンダーフォーラム主催 第77回ジェンダーセッション

「アメリカのオギノ式—1930年代の「自然」な避妊法の導入をめぐる郵便・宗教・産児調節運動の様態」

日 時： 2019年5月20日(月) 18:00~20:00

講 師： 横山美和(立教大学ジェンダーフォーラム教育研究嘱託、お茶の水女子大学基幹研究院研究員、東洋大学非常勤講師)

会 場： 池袋キャンパス 4号館別棟 4151教室

第77回ジェンダーセッションは、ジェンダーフォーラムの教育研究嘱託で、科学史・ジェンダー史をご専門とされる横山美和氏に、1930年代初頭のアメリカにオギノ式が導入されたことによる郵便・宗教・産児調節運動への交錯した影響について、ご報告いただきました。

産婦人科医・荻野久作の学説に基づき、排卵期を避けることで妊娠確率の低下を企図した避妊法である「オギノ式」は、当時、避妊を禁じていたはずのローマ教皇が容認したと解釈され、アメリカで「リズム」として広まりました。こうした経緯からカトリック教徒のオギノ式の受容に関する研究は今までも取り組まれてきたのに対し、アメリカの産児調節運動研究の中での受容状況はほとんど検討されてきませんでした。横山氏は、アメリカのアーカイブで産児調節運動の史料調査を行い、当時、避妊に関する情報の郵送を禁じた「コムストック法」(連邦法)が施行されていたにもかかわらず、カトリック教会関係者の関与した「リズム」を記した文書は自由に郵送されていたこと、また、そうした事実が産児調節運動家らにとって予想外の出来事だったことを明らかにしました。例えば、著名な産児調節運動家であるマーガレット・サンガーは、産児調節に反対するカトリック教会とコムストック法によって運動を妨げられていましたが、当のカトリック教徒が「リズム」の出版・宣伝・普及に携わっている事実、カトリック教会の自己矛盾を察知し、怒りを覚えたといえます。その一方で、サンガーとの交流はあったものの、彼女の率いる組織とは別の地方組織であったマサチューセッツ産児調節連盟は、この状況を好機と捉えました。こうしたオギノ式を巡る当時の錯綜した状況を紐解きながら、横山氏は、マサチューセッツの運動家にとって、「リズム」すなわちオギノ式が、対立するグループ同士を繋ぐ役割を期待されるものであったと論じられました。

質疑応答では、史料から読み解かれる歴史的事実に関心が寄せられつつ、「リズム」という名称が当時保有していたと思われる固有の意味や、欧州での受容との比較、他宗派の動きなどについて多くの質問が寄せられ、有意義なセッションとなりました。参加者の皆様とご報告をして下さった横山氏に心よりお礼申し上げます。

(立教大学ジェンダーフォーラム事務局・片岡佑介)

立教大学ジェンダーフォーラム 第77回ジェンダーセッション

アメリカのオギノ式

1930年代の「自然」な避妊法の導入をめぐる郵便・宗教・産児調節運動の様態

2019年5月20日(月)
18:00~20:00
立教大学池袋キャンパス
4号館別棟 4151号室

講師: 横山美和氏
お茶の水女子大学基幹研究院研究員、東洋大学非常勤講師
専門は科学とジェンダー、ジェンダー史。主要論文に「「性差」を最小化する：女性医師C.D. キーラーのフェミニズム」(産科雑誌「産科雑誌」1987年)、2010年など。

主催：お問い合わせ先 立教大学ジェンダーフォーラム
TEL/FAX: 03-3985-2307 E-mail: gender@rikkyo.ac.jp
http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/gender/
入場無料・申込み不要・事前登録不要の公開講座です。